

# 垂心と外心のベクトル表示

三角形の垂心と外心をベクトルで表してみよう。とは言っても、いきなりすぎて何から手をつけてよいか分かりませんが、まずスタートとなるのは次の有名事実です。

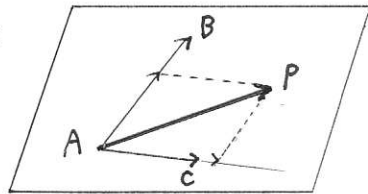
▷Point◁

$\vec{AB}$  と  $\vec{AC}$  が 1 次独立のとき、平面 ABC 上の任意の点 P は

$$\vec{AP} = s\vec{AB} + t\vec{AC}$$

と表すことができる。

$\vec{AB}$  と  $\vec{AC}$  をキートンに  
伸び縮みして足し合わせ  
ると、 $\vec{AP}$  が作り出せる。  
ということですよ。



OK

つまり、 $\triangle ABC$  が与えられたとき、 $\vec{AB}$  と  $\vec{AC}$  は必ず 1 次独立なので、垂心だろうと外心だろうと平面 ABC 上の点 P は全て必ず  $\vec{AP} = s\vec{AB} + t\vec{AC}$  の形で表現されることが保証されているのです。

つまり、係数である s と t を決定することが目標となります。そのためには、垂心と外心の特徴をベクトルで表して、s と t の関係式を 2 個つくればよいのです。「垂直」が絡んでくるので内積を利用することがポイント。

## 1 垂心のベクトル表示

三角形の各頂点から、向かい合う辺(またはその延長)におろした垂線の交点を垂心と言います。

**例題 1**  $AB = 6, AC = 4, \angle A = 60^\circ$  である三角形 ABC の垂心を H とする。  
 $\vec{AH}$  を  $\vec{AB}, \vec{AC}$  を用いて表せ。

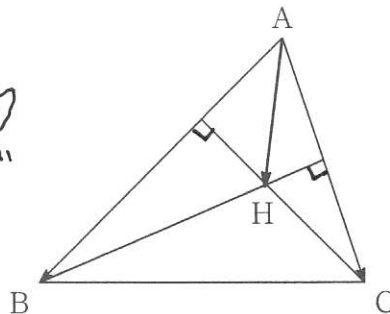
**考え方** 先ほどの Point に従い、 $\vec{AH} = s\vec{AB} + t\vec{AC}$  とおきます。あとは、垂心の条件から s と t の関係式を 2 個つくればよいのです。「垂直」が絡んでくるので内積を利用することがポイント。

**解**  $\vec{AB}, \vec{AC}$  は 1 次独立なので、

$$\vec{AH} = s\vec{AB} + t\vec{AC} \quad \leftarrow \text{これはお決まりの設定 ばーい}$$

とおける。

$$\begin{aligned} |\vec{AB}|^2 &= 36, \quad |\vec{AC}|^2 = 16, \\ \vec{AB} \cdot \vec{AC} &= |\vec{AB}| |\vec{AC}| \cos 60^\circ = 12 \text{ である。} \end{aligned}$$



$$\begin{aligned} CH \perp AB \text{ より, } \vec{CH} \cdot \vec{AB} &= 0 \\ (\vec{AH} - \vec{AC}) \cdot \vec{AB} &= 0 \\ \vec{AH} \cdot \vec{AB} &= \vec{AC} \cdot \vec{AB} \\ (s\vec{AB} + t\vec{AC}) \cdot \vec{AB} &= \vec{AC} \cdot \vec{AB} \\ s|\vec{AB}|^2 + t\vec{AC} \cdot \vec{AB} &= \vec{AC} \cdot \vec{AB} \\ 36s + 12t &= 12 \\ 3s + t &= 1 \quad \dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

始点をずべて  
A にやります。  
7474

$$\begin{aligned} BH \perp AC \text{ より, } \vec{BH} \cdot \vec{AC} &= 0 \\ (\vec{AH} - \vec{AB}) \cdot \vec{AC} &= 0 \\ \vec{AH} \cdot \vec{AC} &= \vec{AB} \cdot \vec{AC} \\ (s\vec{AB} + t\vec{AC}) \cdot \vec{AC} &= \vec{AB} \cdot \vec{AC} \\ s\vec{AB} \cdot \vec{AC} + t|\vec{AC}|^2 &= \vec{AB} \cdot \vec{AC} \\ 12s + 16t &= 12 \\ 3s + 4t &= 3 \quad \dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

始点をずべて  
A にやります。  
わかるとよ

①, ② より,  $s = \frac{1}{9}, t = \frac{2}{3}$ . したがって,  $\vec{AH} = \frac{1}{9}\vec{AB} + \frac{2}{3}\vec{AC}$

## 2 外心のベクトル表示

三角形の外接円の中心を外心と言い、各辺の垂直二等分線の交点として与えられます。

**例題 2**  $AB = 8, BC = 7, CA = 5$  である三角形  $ABC$  の外心を  $O$  とする。  
 $\vec{AO}$  を  $\vec{AB}, \vec{AC}$  を用いて表せ。

**考え方** 先ほどと同様に  $\vec{AO} = s\vec{AB} + t\vec{AC}$  において、外心の条件から  $s$  と  $t$  の関係式を 2 個つくりま  
す。「垂直」が絡んでくるので内積を利用することがポイントですが、今回の場合、どうやって内積  $\vec{AB} \cdot \vec{AC}$   
の値を計算するのでしょうか？

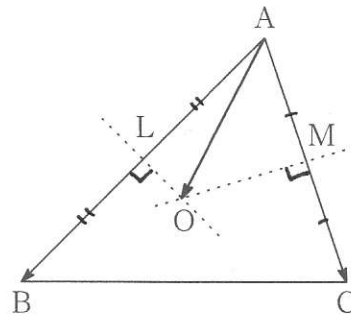
**解**  $|\vec{BC}|^2 = |\vec{AC} - \vec{AB}|^2 = |\vec{AC}|^2 - 2\vec{AB} \cdot \vec{AC} + |\vec{AB}|^2$  より、  
 $\vec{AB} \cdot \vec{AC} = \frac{|\vec{AB}|^2 + |\vec{AC}|^2 - |\vec{BC}|^2}{2} = \frac{8^2 + 5^2 - 7^2}{2} = 20$

3辺の長さから内積の値を  
求める方法をおぼえておこう。

$\vec{AB}, \vec{AC}$  は 1 次独立なので、

$$\vec{AO} = s\vec{AB} + t\vec{AC}$$

これはお決まりの  
設定方法  
OK



知らんかったわ

とおける。

辺  $AB$  の中点を  $L$ 、辺  $AC$  の中点を  $M$  とすると、

$$\begin{aligned} LO \perp AB \text{ より } \vec{LO} \cdot \vec{AB} &= 0 \\ (\vec{AO} - \vec{AL}) \cdot \vec{AB} &= 0 \\ \vec{AO} \cdot \vec{AB} &= \vec{AL} \cdot \vec{AB} \\ (s\vec{AB} + t\vec{AC}) \cdot \vec{AB} &= \frac{1}{2} \vec{AB} \cdot \vec{AB} \\ s|\vec{AB}|^2 + t\vec{AC} \cdot \vec{AB} &= \frac{1}{2} |\vec{AB}|^2 \\ 64s + 20t &= 32 \quad \dots(*) \\ 16s + 5t &= 8 \quad \dots① \end{aligned}$$

始点をずら  
て A にそろえます  
いいも通り...

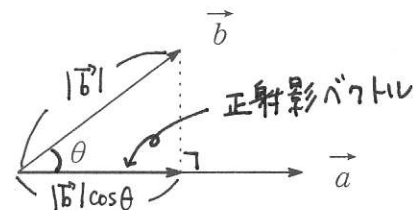
$$\begin{aligned} MO \perp AC \text{ より } \vec{MO} \cdot \vec{AC} &= 0 \\ (\vec{AO} - \vec{AM}) \cdot \vec{AC} &= 0 \\ \vec{AO} \cdot \vec{AC} &= \vec{AM} \cdot \vec{AC} \\ (s\vec{AB} + t\vec{AC}) \cdot \vec{AC} &= \frac{1}{2} \vec{AC} \cdot \vec{AC} \\ s\vec{AB} \cdot \vec{AC} + t|\vec{AC}|^2 &= \frac{1}{2} |\vec{AC}|^2 \\ 20s + 25t &= \frac{25}{2} \\ 8s + 10t &= 5 \quad \dots② \end{aligned}$$

始点をずら  
て A にそろえます  
フツー

①, ② より,  $s = \frac{11}{24}, t = \frac{2}{15}$ . したがって,  $\vec{AO} = \frac{11}{24}\vec{AB} + \frac{2}{15}\vec{AC}$

**注** 最初の内積の計算が思いつかない場合は、余弦定理から  $\cos A$  の値を求めて内積の定義式  $\vec{AB} \cdot \vec{AC} = |\vec{AB}| |\vec{AC}| \cos A$  から求めても良いですが、結局やってることは同じであることに気づくはず。

**参考** 内積  $\vec{a} \cdot \vec{b}$  は次のように解釈できます。  
 $\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| |\vec{b}| \cos \theta = |\vec{a}| \times |\vec{b}| \cos \theta$   
 $= (\vec{a} \text{ の大きさ}) \times (\vec{b} \text{ を } \vec{a} \text{ に写した影の長さ})$   
**注** 影のベクトルを「正射影ベクトル」と言います。



そういう見方も  
ありだね  
ふん

つまり,  $\vec{AB} \cdot \vec{AO} = (\vec{AB} \text{ の長さ}) \times (\vec{AO} \text{ を } \vec{AB} \text{ に写した影の長さ})$  と解釈できるので。

( $\vec{AO}$  を  $\vec{AB}$  に写した影の長さ) とはすなわち  $AL$  の長さのことなので,  $\vec{AB} \cdot \vec{AO} = 8 \times 4$ . よって,  
 $\vec{AB} \cdot (s\vec{AB} + t\vec{AC}) = 32$  より一気に式 (\*) が出てきます。これは早い! 正射影ベクトルの考え方を  
使いこなせるととても便利ですね。  $\vec{AC} \cdot \vec{AO}$  も各自で確認しておこう。

はい